PRESS RELEASE

令和5年（2023年）5月17日

山形大学とニシム電子工業（株）が包括連携協定を締結

～東北と九州と地域を繋ぐ連携で「スマートアグリフードシステム（※1）」の社会実装を加速～

【本件のポイント】

●本日、国立大学法人山形大学とニシム電子工業（株）は、山形大学アグリフードシステム先端研究センターが推進する、食の10次産業化に係る技術開発及び研究成果等の社会実装、人材交流を促進し、農業分野のデジタル人材育成等で連携・協力するため、次のとおり包括連携協定を締結しました。

●包括協定の内容は、以下の6項目です。

（1）地域の産業振興に関すること。
（2）研究シーズの社会実装の推進に関すること。
（3）人材の育成に関すること。
（4）教育、文化の振興に関すること。
（5）環境の保全に関すること。
（6）その他前条の目的を達成するため必要な分野に関すること。

●両者は、本締結をきっかけに、デジタルデータを活用した営農活動に関わる技術開発及び、研究成果の社会実装を加速し、山形県のみならず、国内外へ向けた技術提供を推進して参ります。

【概要】

山形大学では、３つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を実現するため、研究推進体制の一つとして、2022 年 7 月に山形大学アグリフードシステム先端研究センター（YAAS）を立ち上げました。本センターでは、デジタルデータを活用した営農活動に係る技術開発及び研究成果等の社会実装、人材交流を促進し、農業分野のデジタル人材育成等を推進中です。本、包括連携協定の締結により、ニシム電子工業（株）より連携研究員が本センターに駐在し、連携研究の加速を行います。企業と学生が共同研究で進め、これからの営農に必要なデジタル営農人材を育成及び、研究成果を社会実装することで、地域の産業振興に貢献します。

【背景】

農業、畜産業における主な労働者は、高齢化が進み、2020 年度農林業センサスによると、10 年後は基幹的農業従事者が約 40 万人減少することが想定されています。現在の農業生産体系の継続では、生産量が減少すると想定されています。生産量を維持または向上させるためには、1 人の農業従事者の生産効率を上げるため、食と農に関わる様々なノウハウをデジタルデータとして蓄積及び活用することで、効率的な生産活動を進め、生産能力を高める取り組みが急務です。

【研究手法・研究成果】

これまで、山形大学では、農業分野における研究のためにデジタルデータの収集と分析結果を研究論文として発表して参りました。今後は一人一人の研究者の成果をより広く社会へ提供することでその社会実装の使命を果たして参ります。また、ニシム電子工業（株）は“地域・社会の明るい未来にチャレンジし続けるチームニシム”を掲げ、「社会の課題解決やスマート化に貢献する製品・サービスの創出・拡大」の実現を目指しております。山形大学とニシム電子工業(株)は、両者の技術、知見を生かし、持続可能な農業を支えるソリューションを提供して参ります。

【今後の展望】

ニシム電子工業（株）と共に、デジタル情報を営農に生かせるデジタル人材を育成し、地域の営農を支えるデジタルインフラを提供し、地域を支えて参ります。

※用語解説

※1 スマートアグリフードシステム：食の 10 次産業化＝従来の生産（1 次産業），加工（2 次），流通販売（3 次）からなる 6 次産業に DX，ビッグデータ解析、健康コホート分析、食のリテラシー教育などの知的集約産業（4 次）を組み合わせることで、スマートアグリフードシステムを構築する取組み。

お問い合わせ
山形大学 学術研究院プロジェクト教員（助教）　市浦 茂（スマート農業学）
メール　sichiura@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

ニシム電子工業株式会社 事業企画開発グループ　池尻 誠（農業ソリューションチーム）
メール　ikejiri@nishimu.co.jp